

3月の植物

アオキ (*Aucuba japonica* thumb. →ナンゴクアオキ *var. oviea*—アオキ科) ミズキ科

冬、近くの山のこんもり茂った林に入れば赤い実をつけたアオキがひと際輝いてみえる。よく見ると、あちこちに傷ついた実があり「どんな小鳥が食べたのかな？」と小鳥への関心が高まるばかりである。

アオキ(青木)は山地樹林内に生える雌雄異株の常緑低木で、日本特産。枝が太くて青いのでアオキという。花は3月～5月に咲き、雄木の花が雌木の花より少し早く、2月下旬から開花している。果実は12月～5月に赤く熟す。「佐賀の植物方言と民俗」によれば「木質が硬いので火で焼いて箸を作るとか、太さ3cm以上、長さ40cm以上の枝で浮立の笛を作る地区が紹介されている」

DNA解析による最新の分類体系(APGⅢ)によると、九州地方のアオキは染色体が二倍体で四倍体のアオキと区別されナンゴクアオキと名付けられている。



写真 2016. 2. 22 武雄町赤穂山トンネル旧道